

令和 3 年度 学校経営計画及び学校評価

1. めざす学校像

【学校像】

「豊かな人間性をはぐくみ、社会に貢献できる青年を育成する」という『建学の精神』のもと、学校教育を通じて地域社会からの信頼や期待に応えられる学校、生徒が何歳になっても誇りを持って語れる学校、教職員が生徒の満足を自らの喜びにできる学校づくりをめざす。

【生徒像】

- お互いの人権を尊重し、学校や地域社会の中で協力・共同できる生徒
- 社会的規律を尊重し、豊かな情操を身につけ、責任ある行動がとれる生徒
- 国際社会において活躍するために、たくましく生きる力を身につけた生徒

2. 中期的目標

「基本的な生活習慣の確立および大学進学実績の向上」という重点目標の達成をめざし、各部署・各学年で4月当初には活動方針を策定する。できる限り目標を数値化し、その目標を達成するための具体的な方策を立案する。12月に進捗状況、3月に目標達成状況（総括）を校務会議・職員会議で報告し、次年度への課題を明確にし、R-PDCAサイクルを確立させる。

1. 生徒指導を基盤にした学習指導と進路指導を確立する。

(1) 学力向上と進路実現

生徒が6年間の学校生活の中で自らの進路目標を持ち、自己実現できる進路を獲得できるよう取り組む。

- ① 6年間を見据えた進路指導の計画に即し、学習指導を行い希望する進路を実現させる。
- ② 教科会議を充実させ、授業内容の点検や指導法の研究を行い授業力向上に取り組む。特に、高大接続改革を見据え指導法の工夫改善を行う。
- ③ 前期課程の段階から学問探究団「RYS」（論より証拠）や総合的な学習の時間「学芸ESD」の取組みを通して、自分の進路に対する意識を向上させる。前期課程の3年生でどの進路を選ぶことがふさわしいかを考えさせ、後期課程の4年生から文理選択を行う。
- ④ 自学自習の習慣を身につけさせ、自己の進路を自らの力で切り開く姿勢を育成する。

(2) 基本的な生活習慣の確立

学力向上の基盤は「基本的な生活習慣の確立」である。すべての教育活動を通じ「素直に人の話を聞ける生徒」「挨拶のできる生徒」「ルールを守る生徒」の育成に努める。

- ① コミュニケーション能力を育成し、良好な人間関係を構築することで、学校生活への満足度を高める。
- ② いじめを許さず、生徒全員が安心して登校できる学校づくりをめざす。
- ③ 校内および通学途中における服装の乱れをなくし、マナーを守ることのできる社会性を育成する。

(3) 社会性・協調性の育成

少子化・核家族化の影響で親の過保護・過干渉の中で育ってきた生徒たちは、自己中心的な性格になりがちであり、協調性や耐性に欠ける面がみられる。建学の精神にある社会に貢献できる人間を育成するための取り組みを教育活動全体の中で実施し自己肯定感を高めていく。

- ① 体育祭や文化祭等の学校行事や人権教育などの取組みを通して他者への思いやりや協調性、自分の意見を相手に伝える力（コミュニケーション能力）を育成する。
- ② 限られた時間や施設での部活動だが、その中で持続力や耐性を養い協調性を育成する。
- ③ 様々なボランティア活動を通して、社会への関心を高めるとともに奉仕の精神を育成する。

2. 保護者に信頼される学校づくり

(1) 保護者への情報提供

校区を持たない完全6年一貫の本校は、保護者との連携をいかに図っていくかが大きな課題といえる。さらに、募集停止を受け丁寧な連携が必要である。

- ① 三者面談や保護者会・進路説明会を通して学校生活の様子や卒業後の進路を保護者とともに考える中で、信頼関係を築いていく。
- ② 進路ガイダンスを充実させ、生徒の進路希望を担任が十分把握し、保護者と生徒の願いを学校が受けとめることにより、信頼関係を築いていく。
- ③ 学校生活の様子をホームページ等で情報発信する等、開かれた学校づくりを進めることで保護者との信頼関係を深める。

(2) 危機管理体制の確立

地震や豪雨・巨大台風の上陸をはじめ、いつ発生するかも知れない地震への対応を考え、生徒の安全を第一にした防災体制を構築していくことが求められる。

- ① 避難訓練を通して集団で避難するときの心得を育成し、災害に備える。
- ② 帰宅困難となる生徒が出た場合を想定し、保護者との連絡体制を整えていく。

【自己評価の結果と分析・学校協議会の意見】

<自己評価の結果と分析>

募集停止となり2年が経過、前期課程も3年生のみとなったが、少人数教育のメリットを最大限生かした教育の提供により生徒・保護者の満足度は上がっていると実感している。さらに、生徒のモチベーションをアップさせ、やる気を引き出す行事や取り組みを一層充実させる必要性を感じている。

新型コロナウイルス感染症の影響も未だ収まらず、先行きが不透明な中、『子どもの学びを止めない』ということを前提に、オンライン授業などを活用し教育の提供を実践している。

□ 学力向上と進路実現

- ・令和3年度も学級閉鎖や学年閉鎖等でコロナとを気にしながらの1年となった。昨年度の経験も踏まえ、Classiの活用や、Google Classroomを利用し、課題配信および提出・点検等で最低限の教育の提供はできたが、普段のように双方向のやりとりができる授業展開は今後の検討課題である。
- ・普段の授業では、タブレットや電子黒板などのICT機器を活用した授業づくりが成果を挙げており、生徒の興味関心を引いていると考えられる。
- ・募集停止に伴い、外部の高校への進学を希望する生徒に対し、3年次にいわゆる先取り学習を行わず、高校入試に対応した受験クラスを別に設け指導している。
- ・6年完全中高一貫の本校は高校入試がなく生徒のモチベーションを6年間維持することは難しいが、やはり教員が生徒の興味関心を引く授業を展開し、生徒の理解度を高めていくことが一番大切である。また、6年間を見据えたカリキュラムを組んでいるが、途中でつまづいてしまうとそれが最後まで影響してしまうので、計画的に個別指導を充実させる必要がある。
- ・教員の授業力向上を目的として、生徒による授業評価アンケートを実施した。教員が経年比較をしながら自己分析を行い、分析結果を評価シートにまとめた後、提出させ指導助言を行った。課題を明確にすることが大切で、指導法の工夫改善につなげている。また、教科会議で授業アンケートの分析を行い、教科別に評価シートを提出させた。
- ・教員の全般的な指導力向上を目指し、学習指導・生徒指導・校務分掌の3項目について「自己評価シート」を作成させている。4月に目標、8月と12月に進捗状況、3月に達成状況を提出させ指導助言を行っている。
- ・保護者による学校評価アンケートで「全科目にわたり学習指導は充実しており、学力向上に十分な成果を挙げている」という問いに対し、全体の肯定回答は、58%で前年度より7ポイント増加している。全般にテストの点数等、目に見える成果を重視して回答する保護者が多いように思われる。
- ・保護者アンケート「進路指導は充実しており、生徒の希望進路の発見・実現に十分寄与している」という問いに対し、全体の肯定回答は、ここ3年で飛躍的に向上している。(2019:50%、2020:58%、2021:74%)。高校入試を経験しない本校では、前期課程の段階から進路に対する意識の向上を図るよう指導していくことが大切である。また、6年間をかけて大学進学を目指していく中で、自分の将来を見据えることは重要なポイントである。は教科の授業以外の「ESD」や「RYS」などの取り組みも継続し、将来の夢や進路について考える生徒を増やしていく必要がある。

□ 基本的な生活習慣の確立

- ・日常の生活の中で、大きな声であいさつをする、時間を守る、ルールを守る等、基本的な生活習慣の確立が大切である。そして、その根幹にあるのが人の話を素直に聞く、自分の気持ちを自制するという心の育成である。定期的に二者面談を行い、常に生徒理解に努めている。
- ・学力向上とともに豊かな人間性を培う指導を充実させる必要がある。保護者アンケート「子どもに獲得させたい資質」という問いの回答として、「学力・知力」に次いで「自主自律の姿勢」「協調性・社会性」「将来を切り開いていく力」「責任感」が上位を占めている。また、前期課程では特別の教科「道徳」の指導を充実させることが望まれる。

<学校協議会の意見>

□学力向上と進路実現

- ・募集停止になっても、在籍する生徒が卒業するまで責任を持って面倒をみてください。
- ・コロナ禍でICT機器を活用したオンライン授業が注目されている。双方向の授業展開ができるように研鑽を深めて欲しい。
- ・自学自習の習慣をいかに身に付けさせるか、生徒のやる気をいかに喚起させるかがポイントである。また、全体の雰囲気作りが大切と思われる。テスト前だけでなく、普段から心掛けて欲しい。
- ・進路指導は、6年間を系統立てて、それぞれの学年でのポイントを明確にしているのは良いことである。
- ・京都大学や鳥取大医学部の合格者がでたのは喜ばしい。ここ数年大学合格実績が低迷していたが、昨年度の市大医学部の合格に続き、よく頑張っている。募集停止になったが、後輩の大きな励みになっていると思う。
- ・今後、教員数も減る中でより効率的な指導が望まれる。授業アンケートの結果をしっかりと自己分析することで授業力向上につなげて欲しい。

□基本的な生活習慣の確立

- ・時間を守る、ルールを守る、あいさつをする等の基本的な生活習慣の確立は、すべての教育活動の基盤にあると思う。学校と家庭がしっかり連携する必要がある。
- ・中学生の段階で、生活指導をしっかり行うことが、後期課程につながると思う。ルールを守るという規範意識の醸成が不可欠である。規則は強制されるものではなく自らまもるべきものであるということを教えて欲しい。
- ・中学校は道徳が教科化された。豊かな人間性を育てるために、しっかり取り組んで欲しい。

<p>□ 社会性・協調性の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校あげての学校行事については、新型コロナウイルスの影響で、文化祭は中止、体育祭は規模を縮小し午前中のみ、保護者の参観なしで行った。学年を縦割りにした団を編成して取り組んだ。例年と異なる形態であったが、学年を越えた一体感を生み出し大いに盛り上がった。新型コロナウイルスが終息しない状況で、今後、生徒数も減少していく。行事の見直しや精選が必要であるが、生徒の満足度を上げる内容の工夫が望まれる。 ・すべての教育活動を通して社会性や協調性を育てるために、様々な教育活動をキャリア教育の視点から見直す必要がある。現在行われている教育活動が単発ではなく有機的な繋がりをもつように、部署間で連携し横断的に内容を検討する必要がある。 ・「RYS」の取り組みは、ゴミひろいの社会奉仕プログラム『ピリカ』の活動、福島とオンラインを活用した現地との交流が、生徒自ら考える機会となり大いに成果を上げた。 <p>□ 保護者への情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、新型コロナウイルスの関係で、臨時休業中に連絡を発信することが多かった。そして、学校の様子を保護者へ情報発信していくことや連携をしっかりと丁寧に対応していくことが信頼関係を築いていくうえで大切な要素である。タブレットの活用は定着してきたが、今後も有効なツールとなると考えられる。 ・保護者アンケートの「教員は相談しやすく誠実に対応してくれる」という問いに対し、今年度は90%と高い肯定回答があった。教員と生徒の関係は非常に重要であり、創立当初より教員と生徒の距離が近いことが特色の一つである。まだまだ十分ではないが、一人一人の生徒の心に寄り添う指導を推進し、生徒の満足度が高まるよう努力を続ける必要がある。 <p>□ 危機管理の体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここ数年、豪雨や台風等により大きな災害が多発している。常に、危機管理体制に万全を期すことが求められる。 ・機会あるごとに、防災に関する心構えを伝えている。また、3年生は住吉消防署の協力を得て防災訓練を実施した。 ・本校は大和川の南からの通学者も多数在籍し、豪雨による氾濫・通行止めにより帰宅困難になる生徒が多く出ることも予想される。各自が防災セットを購入し教室に保管している。 	<p>□ 社会性・協調性の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒数が減少しこれから先細りしていくが、行事や取り組みも工夫し生徒の満足度を上げるように努めてください。 ・生徒数が減り、しかも長引くコロナ禍の状況ですが、学校行事を工夫し、縦のつながりである異学年交流を充実させて欲しい。 ・「RYS」や「ESD」の取り組みも継続し、自分の将来を見据えたキャリア教育の視点を持って、進路獲得に向け努力して欲しい。 ・社会性や協調性を育てるためには、ボランティア活動は大変有効である。参加する生徒を多く育ててください。 <p>□ 保護者への情報提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響で、保護者に連絡することが多いと思うが、タイムリーで行っているのは保護者の信頼を得る上で大切だと思う。 ・募集停止後、ホームページの更新が少ないように思う。学校での様子をしっかりと伝えて欲しい。 ・コロナ禍で、ICT 機器の活用は有効だと思うが、対面での話をする機会も大切であることを常に念頭に置いてほしい。 <p>□ 危機管理の体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段から、生徒たちの防災に対する意識を高めることが必要である。 ・これだけ大きな災害が多発している。常に、こどもの安全を第一に考え、危機管理体制は常に万全を期すことが求められる。
---	--

3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

中期目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学力向上と進路実現	1. 学力向上と進路実現に向けた取り組みの強化	6年間を見据えたカリキュラムを編成し、学力をしっかりと身につけさせるよう教育実践を行ってきた。 生徒の興味関心を引く授業を展開し、生徒の意欲を向上させる学習指導を行う必要がある。	(1) 授業アンケート「意欲度」の指数(肯定回答-否定回答)を60%以上にする。	生徒が明確な目標を持ち、6年間で確かな学力を身につけることが自らの進路実現につながっていく。生徒のやる気を引き出し、「わかる喜び、学ぶ楽しさ」を実感できる授業づくりが大切である。
	(1) 生徒の授業満足度を上げる。	(1) 学力向上のために「わかる授業」を生徒たちに保障する。		○アンケート1「あなたにとって先生の授業は意欲的に取り組める授業ですか」の指数(授業アンケート) 前期課程：全体70% 1年 - % 2年 - % 3年70% (1年前) (60% - % 60% 60%) 後期課程：全体72% 4年66% 5年77% 6年73% (1年前) (69% 81% 71% 61%)
	(2) 自学自習の態度を育成し、意欲的に学習する姿勢を身につけさせる。	(2) 多様な進路希望に対応した学習指導を充実する。		すべての学年で、評価指標の60%を上回っている。 5年生以下は、一人一台のタブレットを導入しており、それを活用した授業展開も定着してきた。生徒の意欲向上の要因となっている。生徒のコメントにも、ICT機器を使った授業に興味関心を引くという内容が多く見られた。 教科別で差異があるので、常に生徒の学習状況を把握し、個別指導を充実させる努力が必要である。
	(3) 希望する進路を実現させる。	(3) 6年間系統立てた進路指導を実践する。		

学 力 向 上 と 進 路 実 現			<p>(2) 授業アンケート「学力向上度」の指数（肯定回答－否定回答）を40%以上にする。</p>	<p>○アンケート2「先生の授業をうけることで、あなたの学力や知識に変化を感じましたか」の指数 (授業アンケート)</p> <table border="1"> <tr> <td>前期課程：全体</td> <td>62%</td> <td>1年</td> <td>-</td> <td>%</td> <td>2年</td> <td>-</td> <td>%</td> <td>3年</td> <td>62%</td> </tr> <tr> <td>(1年前)</td> <td>(38%</td> <td>-</td> <td>%</td> <td>42%</td> <td>-</td> <td>%</td> <td>36%)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>後期課程：全体</td> <td>54%</td> <td>4年</td> <td>31%</td> <td>5年</td> <td>56%</td> <td>6年</td> <td>69%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(1年前)</td> <td>(53%</td> <td>54%</td> <td>54%</td> <td>52%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>前年度と比較しても学年によって指数が大きく異なる。指数が高い学年は進路目標等が明確になり進路獲得に向け熱心に取り組んでいる。 前期課程は、3年生が評価指標を大きく伸ばしている。授業形態を進級クラスと受験クラスに分け、外部の高校を受験する生徒にも手厚く指導している。その影響がプラスとして評価されていると思われる。4年生は指標が低く今年度も減少している。早期の学習のつまづきを見つけ一人ひとりの学力に寄り添った指導が必要である。 教科により大きな差異があり、特に理科が低い指数を示しているのが課題である。</p>	前期課程：全体	62%	1年	-	%	2年	-	%	3年	62%	(1年前)	(38%	-	%	42%	-	%	36%)		後期課程：全体	54%	4年	31%	5年	56%	6年	69%		(1年前)	(53%	54%	54%	52%)				
	前期課程：全体	62%	1年	-	%	2年	-	%	3年	62%																															
	(1年前)	(38%	-	%	42%	-	%	36%)																																	
	後期課程：全体	54%	4年	31%	5年	56%	6年	69%																																	
	(1年前)	(53%	54%	54%	52%)																																				
		<p>(3) 授業アンケート「理解度」の指数（肯定回答－否定回答）を70%以上にする。</p>	<p>○アンケート3「先生の授業（説明や指示）はわかりやすいですか」の指数 (授業アンケート)</p> <table border="1"> <tr> <td>前期課程：全体</td> <td>74%</td> <td>1年</td> <td>-</td> <td>%</td> <td>2年</td> <td>-</td> <td>%</td> <td>3年</td> <td>74%</td> </tr> <tr> <td>(1年前)</td> <td>(64%</td> <td>-</td> <td>%</td> <td>66%</td> <td>-</td> <td>%</td> <td>63%)</td> <td></td> </tr> <tr> <td>後期課程：全体</td> <td>74%</td> <td>4年</td> <td>60%</td> <td>5年</td> <td>81%</td> <td>6年</td> <td>79%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(1年前)</td> <td>(76%</td> <td>83%</td> <td>74%</td> <td>74%)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>後期課程は、4年生で評価指標の70%を10%下回った。「学力向上度」の指標と同様、基礎学力をしっかりと定着させることが理解度につながっていく。 ICT機器を大いに活用した、興味・関心を引く授業づくりが成果を挙げつつあるが、今後も教科会議を充実させ、授業づくりの研修を深めなければならない。</p>	前期課程：全体	74%	1年	-	%	2年	-	%	3年	74%	(1年前)	(64%	-	%	66%	-	%	63%)		後期課程：全体	74%	4年	60%	5年	81%	6年	79%		(1年前)	(76%	83%	74%	74%)					
前期課程：全体	74%	1年	-	%	2年	-	%	3年	74%																																
(1年前)	(64%	-	%	66%	-	%	63%)																																		
後期課程：全体	74%	4年	60%	5年	81%	6年	79%																																		
(1年前)	(76%	83%	74%	74%)																																					
		<p>(4) 保護者アンケート「進路指導」の肯定回答を60%以上とする。</p>	<p>○アンケート4「進路指導が充実しており、生徒の希望進路の発見・実現に十分寄与している」の肯定回答した保護者</p> <table border="1"> <tr> <td>全体</td> <td>74%</td> <td>(前年</td> <td>58%)</td> <td>3年</td> <td>68%</td> <td>4年</td> <td>58%</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>5年</td> <td>93%</td> <td>6年</td> <td>74%</td> </tr> </table> <p>学年が上がるにつれて肯定回答が増える傾向が例年見られるが4年が低い指数であるのは大きな課題である。ただし、全体としては前年より16%あがっている。 「わからない」という保留回答は3年14%、4年21%というポイントを示している。(5年4%・6年0%) 前期課程の早い段階から保護者に対しても有効な進路関係の情報を提供していく必要がある。生徒に大学受験を意識づけると共に、これからの社会を見据え、将来の目標を意識できるよう、「RYS」や「進路説明会」などの取組みを継続させる必要がある。</p>	全体	74%	(前年	58%)	3年	68%	4年	58%					5年	93%	6年	74%																						
全体	74%	(前年	58%)	3年	68%	4年	58%																																		
				5年	93%	6年	74%																																		
		<p>(5) 「管理自習室」の利用を促進する。</p>	<p>○自学自習の習慣を身に着けることを目的に「管理自習室」を開設している。新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、管理自習室の開設日・開設時間は縮小された。通常の21時から20時に1時間短縮、緊急事態宣言発令中は、18時30分終了とする。在籍生徒数は少なくなってきたものの、自習室利用者の割合は増加し、学年での自習室を含め、自学自習の習慣が定着しつつある。特に5学年は学年での取り組みとして自習室の活用を促している。また、情報室（管理自習室）のノートPC「Chromebook」を活用し、サテネットやスタディサプリの学習動画を視聴する生徒も多い。</p>																																						

基 本 的 生 活 習 慣 の 確 立	2. 規律ある学校生活の確立	思春期の中高6年間は、身体も心も大きく成長する時期である。本校で過ごす中で、子どもから大人へ大きく成長する過程が見られる。発達段階に応じ、集団の中で規範意識を高め、人間関係を構築する態度を身に着けさせる。常に教員は生徒の心に寄り添い、公平な目で生徒を指導できるようにする。相手の立場を考えた適切なコミュニケーション能力を身に着けさせる。学級経営において、教室の環境整備は欠かせないもので美化意識の向上に努める。	(1) 保護者アンケート「生徒指導」の肯定回答を60%以上にする。	学校全体が落ち着いた雰囲気では規律性を保っていないと、目標の達成にはならない。集団育成の視点を持ち、授業規律を徹底させることが大切である。 ○アンケート1「生徒指導は充実しており、規範意識と自律性の育成に十分な成果を挙げている」の肯定回答をした保護者											
	(1) 規範意識と自律性の醸成 (2) 集団育成および人間関係の構築	(1) ガイダンスに定められた事項をきっちり守れるよう、常に意識をさせる。ルールに沿って学校生活が円滑に進むよう指導する。 (2) 「いじめ事象」に関しては、いじめ防止対策委員会を組織することで、「いじめ」を抑止するとともに「いじめ事象」には担任だけでなく、教職員全体の問題として取り組む体制をつくる。 (3) 教室の学習環境を整備するため、清掃・美化活動を徹底する	(2) 個々の生徒理解に努め、学校生活に対する生徒の満足度を高める。 (3) 保護者アンケート「公平な対応」の肯定回答を80%以上にする。	<table border="1"> <tr> <td>全体72% (前年67%)</td> <td>3年71%</td> <td>4年58%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>5年89%</td> <td>6年70%</td> </tr> </table> <p>前年度に比べ、全体として5ポイント上がっている。各学年ともに、全般に落ち着いた学習環境の維持が出来つつあるが、生徒指導体制を再度点検し見直す必要がある。 今後、生徒数が減少していくが、個々の生徒理解に努め、学校生活の中で生徒のコミュニケーション力を高めていく必要がある。 ○定期的に担任との二者面談を行うとともに、いじめアンケートを学期に1回実施している。相手の立場を踏まえた適切なコミュニケーション能力を育成し、言葉の行き違いなどから「いじめ事象」に発展しないよう、常に考えて行動できるように促す。また、学級で起こる様々な問題について生徒に考えさせ、クラス全体でいじめ防止に取り組ませる指導も大切である。「いじめ事象」が発生した場合は、いじめ防止対策委員会で協議し厳格に対応していくが、ここ数年は開催していない。 日々の教育実践を通じて、生徒と教員との信頼関係を構築し、生徒がいじめ等の悩みを打ちあけやすい雰囲気づくりに努める。人間関係で不安を持っている生徒に対しては、学校カウンセラーと連携し対処している。 ○アンケート2「教員は相談しやすい誠実に対応してくれる」の肯定回答をした保護者</p> <table border="1"> <tr> <td>全体90% (前年84%)</td> <td>3年93%</td> <td>4年79%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>5年100%</td> <td>6年88%</td> </tr> </table> <p>この質問は例年高い数字を示し高評価を得ている。今年度は昨年より6ポイント上がり（一昨年よりはさらに15ポイント上がっている）、目標値を上回る。特に5年生は保護者の信頼は厚い。 生徒指導の第一歩は生徒理解である。学校生活において、二者面談を始め、きめ細かい声掛けが功を奏していると思われる。生徒と教員との信頼関係は生徒指導の根幹をなすものである。本校は生徒と教員の距離が近く質問もしやすい雰囲気がある。多くの教員が生徒一人ひとりの状況を把握しているので、常日頃から声かけができています。 今後も教員が分け隔てなく生徒に接するとともに、生徒の心に寄り添う指導を進めていく。 ○規律ある学校生活を送る上で学習環境の確保は欠かせない。落ち着いた学習の上で、教室の美化を常日頃から心掛けないといけない。掲示物、私物の整理など日々学級で指導を行っているが、学年が上がるにつれ、美化の意識が下がっているように思われる。美化意識を高める取り組みを進める必要がある。美化委員や風紀委員など、生徒の活躍の場を多く持つことにより、環境整備だけではなく人間関係の構築にもプラスになる側面があるので、今後の取り組みの一つとしていきたい。</p>	全体72% (前年67%)	3年71%	4年58%		5年89%	6年70%	全体90% (前年84%)	3年93%	4年79%		5年100%
全体72% (前年67%)	3年71%	4年58%													
	5年89%	6年70%													
全体90% (前年84%)	3年93%	4年79%													
	5年100%	6年88%													

<p style="text-align: center;">社会性・協調性の育成</p>	<p>3. 社会性・協調性の育成</p> <p>(1) ボランティア活動への積極的な参加</p> <p>(2) 行事の精選</p> <p>(3) 部活動を含む課外活動の充実</p>	<p>(1) 地域貢献活動やボランティア活動に取り組み、豊かな社会性の育成を図る。</p> <p>(2) 部活動や学校行事に関しても、様々な活動を通して生徒の協調性を高める。</p>	<p>(1) ボランティア活動に参加を促す。</p> <p>(2) 学校行事を通して生徒の協調性を高めていく。</p> <p>(3) 部活動に関しては工夫して活動する。</p>	<p>新型コロナウイルス感染拡大の影響で、学校行事や郊外での様々な活動が、中止もしくは規模や内容を縮小して実施した。</p> <p>○例年行っているセレッソ大阪のホームゲームや大阪マラソンでのボランティア活動は中止であった。RYSの活動もできない状況であったが、今年度は、新たな取り組みとして、ゴミ拾いSNSアプリ「ピリカ」を利用した清掃活動を継続して行った。</p> <p>○6月の文化祭は中止、9月末の体育祭は、時間を短縮し競技内容も縮小し実施した。保護者の参観はなしで、午前中のみ開催であったが、学年縦割り団を編成し大いに盛り上がった。3年のオーストラリアへの研修旅行は、行き先を国内に変更して10月に実施した(北近畿・鳥取方面)。5年のヨーロッパへの修学旅行は中止、昨年同様、春期休業中の4月に沖縄方面への国内修学旅行として実施した。</p> <p>今後もコロナ禍の影響が長引くことが想定されるが、生徒の協調性を育むべく、学校行事や取組みは必要不可欠である。また、生徒数減での行事の在り方について、更なる精選が必要である。</p> <p>○部活動は、部員数も減少し、原則週3日間という限られた時間・施設の中での活動ながら、校外の公式戦にも積極的に参加している。今後、部としての存続が危ぶまれるケースも出てくると思われる。</p> <p>しかし、あらたに生徒のニーズに対応する形で「情報科学部」を発足させ、プログラミングや「宇宙エレベーターロボット競技会」に参加したりしている。</p>												
<p style="text-align: center;">保護者に信頼される学校づくり</p>	<p>4. 積極的な情報発信と保護者との連携</p> <p>(1) 保護者との信頼関係の構築</p> <p>(2) 進路情報などの積極的な情報発信</p> <p>(3) 防災への取り組み</p>	<p>私立学校は校区を持たないため、保護者への的確に情報発信することで、信頼関係を築いていくことが大切である。</p> <p>防災訓練等の安全生活に対する取り組みも緊急の課題である。</p> <p>(1) ホームページの充実およびタイムリーな情報発信</p> <p>(2) 保護者との連携強化</p> <p>(3) 防災意識の向上</p>	<p>(1) 保護者アンケート「情報発信」の肯定回答を70%以上にする。</p> <p>(2) 保護者アンケートの「この学校に入学させてよかった」という満足度を70%以上とする。</p>	<p>学校の様子をタイムリーに情報発信することを心掛け、保護者の信託に応えた学校づくりをしていくことが大切である。</p> <p>○アンケート1「学校のHPは充実しており必要な情報を得ることができる」の肯定回答をした保護者</p> <table border="1" data-bbox="986 1227 1465 1294"> <tr> <td>全体 66% (前年 57%)</td> <td>3年 64%</td> <td>4年 50%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>5年 86%</td> <td>6年 63%</td> </tr> </table> <p>昨年よりは上がっているものの、全体として目標指数に届いていない。コロナ禍の影響で、行事や取り組みが中止や内容を縮小しての実施を余儀なくされ、頻繁にHPを更新できなかったことが原因と思われる。</p> <p>配布文書はすべてタブレットを通して送信している。タブレットを持たない6年生もClassiを活用してペーパーレスで配信している。特に、新型コロナウイルスの感染拡大に伴う学校の対応についての連絡をさくら連絡網を活用し頻繁に行った。</p> <p>4月の授業参観は分散での実施とし、保護者会は中止とした。11月は授業参観の時間を蜜を避けるために2時間設けて実施し、その後、ホールにて進路説明会を実施。また、個別に3者面談を学期に1回以上開催している。</p> <p>○アンケート2「入学させてよかったと思う」の肯定回答した保護者</p> <table border="1" data-bbox="986 1854 1465 1921"> <tr> <td>全体 76% (前年 60%)</td> <td>3年 68%</td> <td>4年 67%</td> </tr> <tr> <td></td> <td>5年 93%</td> <td>6年 74%</td> </tr> </table> <p>全体としては、昨年度と同様であるが、学年により大きな差が見られる。それは現状での満足度によって大きく影響している。また、3年生4年生は進路獲得に向けて不安要素がありこのような指標になったのではないだろうか。在校生がすべて卒業するまで、さらに丁</p>	全体 66% (前年 57%)	3年 64%	4年 50%		5年 86%	6年 63%	全体 76% (前年 60%)	3年 68%	4年 67%		5年 93%	6年 74%
全体 66% (前年 57%)	3年 64%	4年 50%														
	5年 86%	6年 63%														
全体 76% (前年 60%)	3年 68%	4年 67%														
	5年 93%	6年 74%														

			<p>(3) 防災意識を向上させる</p>	<p>寧な対応が必要である。生徒数が年々減っていくが、教育課程や学習指導・進路指導・生活指導等すべての教育活動において、生徒や保護者の満足度を高めていく取組みを進める必要がある。</p> <p>○ここ数年、大阪北部地震、西日本豪雨、台風等により、大きな災害が多発した。常に、危機管理体制に万全を期すことが求められる。防災への取り組みは、集会やクラスでの防災講話を行い、3年生が住吉区役所や住吉消防署と連携し防災研修を毎年行った。全体として高校・附属中との合同避難訓練はコロナ禍の影響で実施できず講話のみとなった。また、本校は大和川以南からの通学者が約30%在籍している。豪雨による氾濫・通行止めにより帰宅困難になる生徒が多く出ることも予想され、各自が入学時に防災セットを購入し卒業まで教室に保管し、有事に備えている。</p>
--	--	--	-----------------------	--